

◆被災地の女性人材育成を応援



駐日ノルウェー王国大使
アーリン・リーメスタ閣下

仙台市の着実な復興をまことに嬉しく思います。東日本大震災の後に、ノルウェーと仙台市との特別に緊密で温かいつながりが始まりました。以来ノルウェーは、女性が社会のあらゆる局面やレベルで積極的に参加するよう力づけることを目的とした女性リーダーシッププロジェクトを支援してきました。プロジェクトで取り組まれた災害支援のネットワークは東北や全国をつなぐものとなりました。ノルウェーはこれからも常に仙台の皆様とともにあります！



多様性に配慮した社会づくりが進むノルウェーへの視察研修。



基金事業の一つ「企業の未来プロジェクト」はノルウェー経営者連盟の女性役員育成プログラムを参考にしている。

- ノルウェー王国から仙台に対する復興支援として設置された「東日本大震災復興のための女性リーダーシップ基金」は、被災地（岩手、福島を含む）の復興に携わる女性の人材育成等に活用された。

◆教育、起業—可能性を開く贈り物



駐日カタール国特命全権大使
ユセフ M. ビラール閣下

東日本大震災から5年。私は幾度となく仙台を訪れる機会がありました。その都度、仙台市がまれにみる早さで復興の過程を歩んでいることを肌で感じっていました。仙台の復興プロセスが今後の復興モデルとして広く生かされることを確信しています。カタール国はQFFとして子どもたちの教育と起業家支援プロジェクトに助成しました。未来を担う起業家が仙台市から生まれ、そのネットワークが東北全体に広がり、発展に寄与することを願っています。



仙台子ども体験プラザは、小学生が職業体験、中学生が収入や契約など生活設計を学ぶプログラムを学習する。写真は職業体験の様子。



起業家向け貸オフィスやイベントスペースがあり新しいビジネスを志す起業家の育成が行われているINTILAQ。

- カタールフレンド基金（QFF）の支援を受け、仙台市内には職業や経済の体験学習施設「仙台子ども体験プラザエリム」と、起業支援の拠点施設「INTILAQ（インティラック）」が開設された。

仙台へ応援メッセージ

C h e e r f o r S e n d a i !

発災以来、仙台には国内外から数多くの支援が寄せられた。救助や復旧に始まり、募金、物資、交流や文化を通した支援…。たくさんの絆が生まれ、私たちを支えてくれたことに感謝し、その思いを忘れずに未来につなげたい。



アメリカのプライス夫妻の全面協力による「若冲が来てくれました」展(平成25年3月~5月)



七北田公園キース広場にあるムーミンの遊具は、平成25年7月にフィンランドから寄贈された。

◆音楽で紡いだ子どもたちとの絆



ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
第一ヴァイオリン奏者
ダニエル・フロシャウアーさん

日本を愛し敬う一人の音楽家として、人間として、何ができるかと問うたなら、私には音楽を届け、励ますことしかできないと思ってきました。「ウィーン・フィル＆サントリー音楽復興基金」の活動により、被災地の皆様と交流する機会を得ました。若い音楽家を指導するために仙台を訪れ、子どもたちの前向きで明るいパワーと成長を目の当たりにし、被災地の復興を確信しています。今後も仙台の皆様と交流していくことを願っています。



平成27年7月、ヴァイオリンパートの練習を指導するフロシャウアーさん。



5年間の集大成として、仙台ジュニアオーケストラ定期演奏会（平成28年10月）で子どもたちの夢であったウィーン・フィルメンバーとの共演が実現。

- 復興支援として、平成24年からの5年間、仙台ジュニアオーケストラに対し、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによる演奏指導が行われた。



ニューヨーク・ヤンkees
投手

田中将大さん

仙台・東北のファンの応援は温かく、特に優勝パレードでの「ありがとう！」という声援は選手冥利に尽きるものでした。被災されて大変だった皆さんに喜んでいただき、日本一になって本当に良かったと感じました。「自分に何ができるか。何をすべきか」、直面することに向き合い積み上げた経験が今の僕をつくりています。時がたち、震災を知らない子どもたちが大きくなってきました。風化させないよう経験を伝えていくことが大事だと思います。



21万人が沿道を埋めた優勝パレード（平成25年11月）。「勇気と感動をありがとうございます」の声があふれた。



- 平成18年、設立2年目の東北楽天ゴールデンイーグルスに入団。エースとして活躍し、平成25年に球団は日本一を達成、被災地を大きく勇気づけた。翌年、ニューヨーク・ヤンkeesに移籍。